

2月号

いっしん

平成27年(2015年)

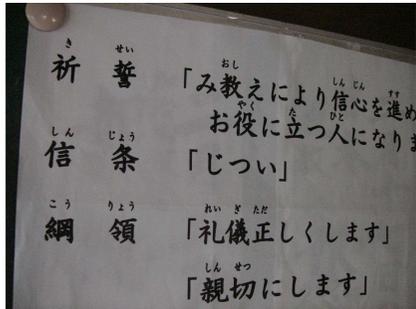
第361号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

日にあらた
日に新たに
神幸に
生かされてこそ
今日の身もあれ

甘木親教会
初代親先生み致

甘木親教会二代教会長安武文雄大人二十年祭、十二月二十三日
加治木教会矢野サグ子真心白萩大刀自三年祭、七月十二日



少年少女会

「鏡開き」

「鏡開き」の意味を調べてみると「正月に神仏にお供えした鏡餅を下げて食べる日本の年中行事」とのことです。

加治木教会の少年少女会では、例年一月上旬の日曜日に開きます。

例年「七草」と併せて、七草入りのたこ焼きなどをする事が多いのですが、今年は予定していません。一月十一日に、参加予定の家庭で風邪が流行し、やむなく二十五日に延期となりました。

お鏡を水餅にして保存して、そのお餅をトッピングしたピザとたこ焼きを作ることにしました。いわば「天地のお恵みとお鏡餅トッピングピザで鏡開き!」ということになります。

出席者は多くありませんでしたが、先代教会長 矢野政美先生は「参加者が一人でもあれば開いていかねば!」と言いつつ、人の助かりと信心の成長を祈り続けられました。

これを守り徹すことの意味合いは、長年続けてみるとよくわかります。

少年少女会…P1 寒中一斉信行…P2~3 矢野政美大人遺稿…P4
連合会定期総会…P5 龍笛の稽古…P6 お知らせ…P7 教会行事…P8

一月五日〜二月四日 寒中一斉信行

ご祈念・研修〜午前五時十五分・十時

今年の加治木教会の「寒中一斉信行」期間では、甘木親教会の布教百年記念大祭（昨年十月二十五日・二十六日）の講話のDVDで勉強させていただきますました。

講師は、金光学園中学・高等学校校長 金光道晴先生でした。



改めて、毎朝十数分ずつビデオ映像の講話を拝聴させていただきました。尊いお話しの内容が深く理解できてきます。尊いお話し

なので、さらに月例祭でも拝聴させていただきますことになりました。

講話は『おかげは和實心にあります』でお話の中で金光学園創設時（明治三

十五年）に桂松平先生の願いのもとに献納された御用材で建築されたことや、戦後の移築や改築では、甘木教会・日田教会の信者さん方が建築の御用に当たられたこともお話になられてあります。

さらに、そのご建築で、今も残っている木造建築の小体育館が、国の登録有形文化財に指定されたことをお話になってあります。

そのような信行期間中の一月二十五日、県下の教会の教師・信徒が集う連合会定期総会が開かれました。

そこで、西鹿兒島教会のTさんが「先般、小倉教会に参拝させていただきましたとき、桂先生からこれを鹿兒島の皆さんに持って行きなさい」と、金光学園の木造建築の小体育館が国の登録有形文化財に指定されたことが掲載されている新聞などをおことづけくださってあり、それを拝見させていただきました。

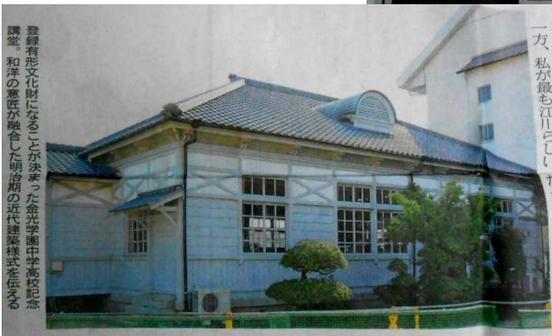
加治木教会にとっては、ちょうど符節をあわせたようにへあのお話の体育館はこれか！という新聞に掲載された写真と文面を拝見・拝読させていただき、ひときわありがたい思いになっ

てしまいました…。(デジタルで撮影) 今春、四月五日の御本部天地金乃神御大祭参拝は、午後からのご祭典なので、午前中にぜひとも、この建物を訪ねさせていたいただきたいものです。



小倉教会からお託けになられた「山陽新聞」

「登録有形文化財になることが、高校で記されることになる。金光学園の歴史を伝える。決まっています。」



登録有形文化財になることが決まった金光学園の歴史を伝える。和洋の趣が感じられる近代建築様式を伝える。

金光道晴先生の (甘木教会記念祭講話)

講話で心に残ったフレーズ

「私にとって大切なものは、今もっているものであって、失われたものではない」(佐藤真海さんのことば…東京パラリンピックフリーズンテーター)

*

金光学園卒業生の井上全悠(まほ)さん(障がい者卓球選手)は、高校三年生のとき百十九年の創立記念式典で「自分の足の障がい、事故で失ったものに心を痛めるのではなく、今持っているものに感謝し、それを大切に、けっしてあきらめることなく、夢に向かって頑張り続けた佐藤真海さんのように生きたい」と発表した。

…百二十年の今年の記念式典に、佐藤真海さん(仙台市)が講演を引き受けて下さるようになった。

*

「人生における苦難はさまざまである。しかし、与えられた苦難は、単にマイナスを意味するだけではけっしてない。苦難の事実には積極的な意味合いを見出すことができれば、苦難はプラスに転化する。苦難は自分を耕すチャンスであり、心豊かな人生の扉を開く鍵であると思う。金光教祖は「難

はみかげ」と教えている。」(金光町在住の藤井世祿子先生が交通事故で献血の必要がありラジオなどで呼びかけをされたご主人のお礼の新聞投稿文より)

*

中山亀太郎先生(元金光教東京寮長)は両手片足を失われておられたが「真剣に苦しみ 真実に生き 運命を愛し 運命を生かす」と書き遺された。お道ならでのこと。そういう生き方、あり方、考え方ができる、和らぎ(やわらぎ)ぶ心にならせていただく稽古をされて、難をみかげとされていかれた。

*

形あるものは放っておくと必ず汚れていく、心も放っておくと、曇り、ゆがみ、初心を忘れ、ゆるみ、油断することがある。だから人間は、日々心を洗い、みがき、豊かにする稽古がいる。改まりの稽古がいる。

*

教祖様は、心を研ぎ和らぎ喜ぶ心になる稽古が大切と教えられている。信心の改まりの稽古は、スポーツや音楽の活動と同じで、ある段階でやめてしまえば、競技力がガタンと(著しく)落ちる。

*

人間の体のように、何十年も油ひつ注さず働き続ける機械はない。

「あたりまえ」であるが、神様の偉大な働き、神秘的なお働きである。

*

親の世話にならずして育った者はだれもない、しかし若い(中高生)頃には、うっとうしい存在になり、そういう言動をとる。親にお世話になったことが「あたりまえ」になってしまふ。天地の恩恵も「あたりまえ」になってしまふ。病気やケガ、尊いものを失って、初めてそのありがたさがわかってくるが、またすべし忘れてしまふ私。

*

和らぎよろこぶ心におかげは生まれても、怒ったり、悲しんだり、憎んだり、心配する心の中には、良いものは生まれてこない。

*

今こそ、お道の、教祖様の教えを大切にされなければならない時代。

*

一人の力では、どうしようもないことも、神様に願い、和らぎ喜ぶ心を持たせていただきたい。

矢野政美大人遺稿

(昭和四十七年二月)

ほんとうの生き方



世の中のだれもが、ほんとうのものを求める心に変わりはないと思います。偽物やごまかしものでは物では納得できないのであります。

本物だと思って買った品物が、実は偽物であったとわかったら、だれしも怒りたくなります。

ところが信心のない多くの人々は、自分ではこれがほんとうの生き方だと思っても、実は間違った生き方をして、あたり一生を終わってしまふことになっておるのではないのでしょうか。

例えば、神様を離れては、一分間も一秒間も生きてはいけなないといふことが当たり前のことが、はつきりしてい

ないがために、毎日毎日が不安定な生き方になっておる人が多いのではないのでしょうか。

では、ほんとうの生き方とは、どんな生き方をいふのでしょうか。

それには、左のことがいえると思います。

一、自分は自分に生きる力があって、生きておるのではなくて、天地の恵みを受けて、生かされてあるという自覚。

二、生まれて今日までの、自分を生かして下さるための、お働き、お恵みに対し、どれほど喜んでお喜び足らず、どれほどお詫び申しても詫び足りないということ。

三、生かされている自分であってみれば、この世の中に何かのお役に立ち、神様から真に生かされたい、生かされたいという願いと努力。

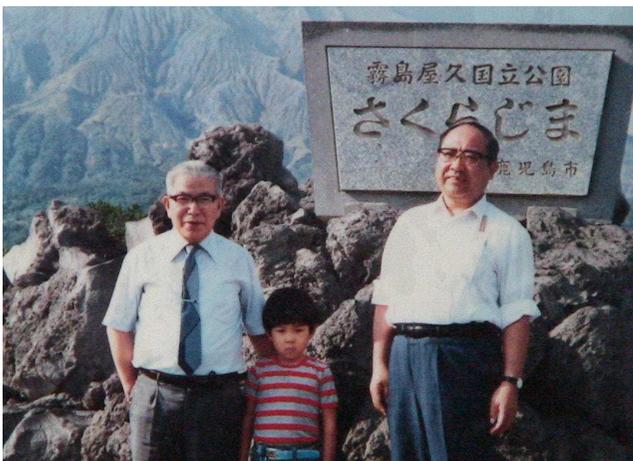
まだほかにいろいろあると思いますが、大別しますと、このようなことにもとづいて、み教えに耳を傾け、御取次を頂きつつ、信心の稽古にいそ

しみいく信心生活こそ、真のいきかたではないのでしょうか。

振り返ってみますと、五年十年は夢のように過ぎ去ってしまいました。

尊い一生を送り、子孫にまでも徳を残していく生き方もあれば、無意味な一生で終わってしまうことにもなっています。

共に今月今日を、真に充実した生き方にならせていただきますよう、おかげを蒙らせていただきますように。



教友、前仙台教会長 御船明雄先生と

鹿児島地方教会連合会

定期総会 開かれる

全教的に取り行われています「寒中一斉信行」も終盤にさしかかった一月二十五日(日)鹿児島地方教会連合会定期総会が鹿児島教会で開かれました。

連合会の各教会から教師・信徒の代表がそれぞれ一名の計二名と、連合会の役員が出席して、定期総会が開催されました。加治木教会からは三名が出席させていただきました。



午前中は、平成二十六年度の活動報告と決算書の報告と審議・承認、平成二十七年度の活動方途と予算書の審議・承認が行われました。

午後からは、昨年まで本部にて教務理事の御用に当たっておられました、大口教会長 安武秀信先生の講話を聴かせていただき、講話後に質疑応答の時間がもうけられ研修をさせていただきました。



長先生 三郎 渡部 志馬 連合会会長



長先生 秀信 安武 大口教会



昼食休憩の間、昨年九月七日に連合会主催で開かれた「教祖様ご生誕二百年信奉者集会」の記録を三十分ほどに編集されたビデオがプロシエクターに投影され、連合会信奉者一同の祈りと御用奉仕によって開催されたようすを振り返らせていただきました。

龍笛の稽古

三月七日(土)・八日(日)に、典楽講習会が鹿児島教会で開催されます。

龍笛を始めてもう四年になろうとするのですが、二人とも腕前はまだまだなのです。

二ヶ月間に一回ほどの練習では、上達は遅々として見込めません。

典楽講習会前の二ヶ月間で、どのくらい集中練習に打ち込めるかが問題です。

すでに曲を奏でることができるようになった方たちと一緒に演奏できれば、隣接教会の御大祭などで御用ができるのですが、まだ、ご祭典の演奏についていけません。そのため、練習の機会



が一向に増えないため、なかなか腕が上がりません…。今年こそは、典楽講習会前に集中的に練習をして、祭典時の演奏に参加できる程度までに、何としてでも上達したいものです。



昨年の典楽講習会のようす

成人感謝祭 仕えられる

加治木教会の信奉者家庭では、三名が成人式を迎えました。

新成人の若者がご祭典に参拝し、神様にこままでの成長を御礼申し上げ、ここからさらに世のお役に立たせていただくことができるようお願いを込めさせていただきました。

教会長先生ご祭主のもと、成人感謝祭の祭詞が奏上され、祭詞奏上後、新成人たちは玉串を奉奠させていただきました。

今回新成人の三名には、「神前にお供えされた『天地は語る』(金光教教典抄)を記念品として贈られました。

この日の教話は「これからは社会人としての責任が生まれます。すると楽しいこともあれば、ときには辛いこと、苦しいことにもたくさん出遭うことになり、一人で対処していかなければならぬことが多くなりますが、御礼・喜びの心で受けていくことができますれば、どんなつらい苦しいことも人生の肥やしとなります。しかし、御礼・喜びの心で受けることができるには、常日ごろから教会に参拝して、み教えを聴かせていただき、親神様のみ心・お恵み・お働きと教祖様のみ教えをシッカリ理解しておくという信心の稽古をしておかねばなりません…」という内容のお話でした。

信心のポイント

「本部のある先生のご教話で左のようなお話がありました。

「私はこういうおかげを頂いたから、このことで神様のありがたいたいがわかったから、だからお参りさせていただいているのです」

「私は、神様のご恩ということがはつきりわかったから、今までは生きていっていると生きていたけれども、生きていっているのではなくて、生かされているんですね、それがわかりました」

そういった、自分でもびっくりするようなことに目覚めた人が、そこから教会参拝するようになる、信心するようになる。

しかし、ここが案外はつきりしていない人がある。すると、信心がよどむ、信心が寝入ることがある。

神様のありがたさとか、おかげを受ける筋道がわかっていると、信心がぶれない。

：このお話しから、矢野政美大人の母堂クラ刀自の信心ぶりが思い出されます。

三十三才の大患の折、甘木親教会初代安武松太郎先生の御取次を機に「自分中心の信心から、親神様中心の信心」と目覚められたからこそ、倒れかかった家が信心を進めるうちに人も羨むような家へと生まれ変わる事ができました。

安武松太郎先生は「枯れかかった木が、

どんな養分も吸い上げられるよう根を張ることができた」とも表現しておられます。

訃報

鹿児島市牟礼岡の濱口マツエさん(濱口正治さん・洋子さんのご母堂)が、一月十一日、満九十三歳にてお国替えされました。

加治木町本町の瀬戸俊子さん(故瀬戸純一さんの奥様)が、一月二十三日、満八十四歳にてお国替えされました。霊様のご安心とお道立てをお祈り申し上げます。

あしあと

加治木教会行事記録

平成二十七年 1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 3 (土) 甘木親教会年頭参拝
- 9 (金) 斎掃御用 10時
- 10 (土) ●生神光月例祭 10時半
●大神様併せて成人感謝祭
- 18 (日) 西鹿児島教会報徳祭 12時
龍笛練習 20時
- 21 (水) 斎掃御用 10時半
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- 24 (土) 少年少女会「鏡開き」10時半
- 25 (日) 連合会定期総会(鹿児島県) 10時
- 31 (土) 斎掃御用 10時半

ご霊神様のおまじ

二月 (敬称等略)

- 桐野ケサノ之霊神(1日)昭和9年
 - 桐野秋子之霊神(3日)昭和7年
 - 中村照子之霊神(4日)平成15年
 - 吉屋安光之霊神(8日)平成11年
 - 川畑正徳之霊神(12日)昭和23年
 - 矢野政美之霊神(12日)平成11年
 - 小屋敷慶二之霊神(14日)平成4年
 - 川畑助太郎之霊神(18日)昭和23年
 - 最勝寺剛藏之霊神(18日)昭和47年
 - 平島タキノ之霊神(18日)昭和52年
 - 福山一間之霊神(20日)平成16年
 - 川畑幸正之霊神(21日)昭和21年
 - 中村正義之霊神(21日)昭和21年
 - 野口ミヤノ之霊神(22日)昭和60年
 - 永原初男之霊神(22日)平成22年
 - 平島房代之霊神(24日)昭和6年
 - 中島武夫之霊神(24日)昭和50年
 - 桐野ケイ之霊神(25日)昭和2年
 - 前田京子之霊神(25日)平成14年
 - 山下ヒサエ之霊神(28日)平成2年
 - 宮内ミツル之霊神(28日)平成13年
- 「先祖の」霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

二月十七日(火)

出発〜午前七時頃
帰着〜午後六時頃

甘木親教会
報徳祭 参拝

二月二十二日(日)

午前十一時より

加治木教会

(前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

併せて 矢野政美大人例年祭

※ご祭典・教話、後直会。

報徳祭

二月八日(日)

宮之城教会 報徳祭
松井茂喜大人一年祭 午前一時より

二月十五日(日)

多良木教会 報徳祭 午前十一時より

二月十五日(日)

上荒田教会 報徳祭 午前十一時より

三月七日(土)・八日(日)

午後二時より 午前十時より

※七日は主に初心者

申込締切 三月一日

典楽会

鹿兒島教会にて
会費・昼食費など一五〇〇円

琴・龍笛・笙・箏・太鼓

教会行事

2月

- 1 (日) ●報徳月例祭 10時半
 - 4 (水) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
 - 8 (日) 宮之城教会松井茂喜大人一年祭 11時
 - 9 (月) 斎掃御用 10時半
 - 10 (火) ●生神金光 大神様月例祭 10時半
 - 11 (祝) 少年少女会 チョコ作り 作品展作品作り 10時半
 - 12 (木) 矢野政美大人立日御祈念 10時
 - 15 (日) 上荒田教会 報徳祭 11時
 - 17 (火) 多良木教会 報徳祭 11時
 - 18 (水) 甘木親教会報徳祭 11時
 - 19 (木) 甘木親教会「同釜会」
 - 21 (土) 若婦人会 13時半
 - 21 (土) 御用奉仕
 - 22 (日) ●加治木教会 報徳祭 11時
 - 25 (水) 26 (木) センター御用(文)
 - 28 (土) 斎掃御用 10時半
- 《未定行事》青年会

加治木教会 バンド練習会

《できるときは、毎週水曜 午後7時半より》
練習のあるときは随時連絡します。
今年も練習会に参加してお役に
立たせていただきますように。

3月

- 1 (日) ●報徳月例祭 10時半
 - 5 (木) 野口家一年祭
 - 7 (土) 8 (日) 典楽講習会 鹿兒島教会
 - 9 (月) 斎掃御用 10時
 - 10 (火) ●月例祭 10時半
 - 12 (木) 若婦人会 13時半
 - 13 (金) 矢野クラ刀自立日 御祈念 10時
 - 20 (金) 斎掃御用 10時
 - 21 (祝) ●春季霊祭 10時半
 - 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
 - 26 (木) 安武孝子姫四十年祭 甘木親教会
 - 27 (金) 29 (日)
 - 29 (日) 甘木親教会「教会子弟の集い」
 - 31 (火) 新田原教会布教50年記念大祭
 - 斎掃御用 10時
- 《未定行事》甘木親教会 少年少女会「交歓会」

